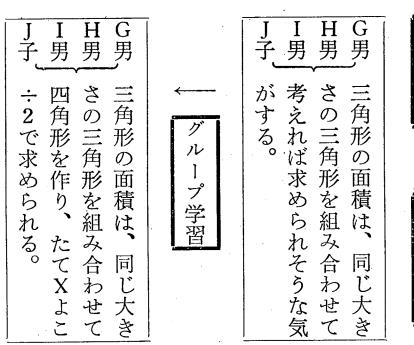


これらのこととを含めながら実践した授業展開は図1の通りである。

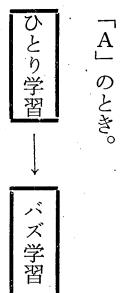
五 研究の成果

上記の実践を通した結果、レディネスと学習形態の関連を次のようにおさえることができた。

- (一) 四名のレディネスが「A」「A」「A」「A」のとき



- (二) 「A」でも、個性的で内容的に違うある。
- 以上に、「ひとり学習」が成立した上で、「グループ学習」を取り入れた結果、四名とも「ひとり学習」のとき
- 「グループ学習」を取り入れた結果、「A」でも、個性的で内容的に違うある。



- (三) 「A」のとき
- 一人の学習の練りあげから、新しい考えが生まれた。このことから、「バズ学習」は、「ふかめまとめる」段階に有効である。
- 四名のレディネスが「A」「A」「A」「A」のとき
- 「バズ学習」も「しらべる」段階に有効だ。

- (四) 「A」のとき
- 二名の学年でレディネスが「A」「C」の状態では学習が効果的に成立しないので「B」を「A」の状態にまで個別指導して高めることが必要である。このとき教材の選択は「映像」に「言葉」ないし「事実」の表現形式を考慮して行う。
- 学習への動機づけとレディネスを高める活動を取り入れて「ひとり学習」を充実させ「ガイド学習」を取り入れたところ成果がみられた。
- 本校では、あくまでも「ひとり学習」の確立を前提に、今後も継続研究する考え方である。

「A」のとき。

A男
B子
地温は太陽高度の影響を受け、気温は地温の影響を受けるので地温と気温の温度の上昇度はそれがおきる。

ペア学習

- (一) 学習の充実とレディネスの客観的な把握を進めるため、各教科の評価の観点をもとにしたレディネスを確かにとらえる研究を深める。
- (二) 学習の展開の基本となる「ひとり学習」を主体的に進められるようとするためには、教科の教材内容によって異なる学び方の学習を重視していく。

一人一人の考えが内容的に違うとき、「異質ペア」を組んだことにより、それをもとに「グループ学習」を取り入れた。

- (三) 形成的評価を重視し、学習形態と密接にかかわる課題の設定や、学習ステップの構成の研究も重視していく。
- (四) 指導過程における学習形態を実態に応じて弾力的に扱い、道徳や、特別活動でも活用できるように工夫すれば有効だ。

- (五) 人間関係を重視し、個々のみが合いにより調和的な発展を図る。
- 七年間の継続研究の基礎となつたのは日々の実践の積み重ねであった。児童の個々の変容について語り合える喜びは、いつしか私達教師の姿をも変えていった。

今後は、さらに研究を深め山里の少ない一人一人の児童のために新しい道をきり開いていく考え方である。

六 今後の課題